様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０２１４

研究課題名（和文）『平家物語』とそれを取り巻く唱導文化の綜合的研究

研究課題名（英文）the Comprehensive Study of Preaching Culture around the Tales of the Heike

研究代表者
牧野　淳司（Makino, Atsushi）

明治大学・文学部・専任教授

研究者番号：１０４５３９６１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、日本中世における唱導（法会で導師が高座から行う説経）に関係する諸文化と『平家物語』との関係性に関するものである。資料として、安居院流（平安時代の天台僧である澄憲が創始した唱導の流派の一つ）の資料である国立歴史民俗博物館蔵『転法輪鈔』や、東大寺の僧である弁暁の唱導資料を利用した。澄憲と世俗社会との交流から生まれた表白（法会開催の趣旨を述べた文章）の表現や、弁暁によって作られた後白河法皇をめぐる歴史語りが、『平家物語』の表現や歴史叙述へと引き継がれていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research is about the relationship between The Tale of the Heike and cultures related to shodo 唱導(the sermons delivered by the officiating monk from a pulpit at a Buddhist assembly) in the medieval Japanese society. I carried out this research with the version of the Temporinsho転法輪鈔 possessed by the National Museum of Japanese History and the sermon documents by Bengyo弁暁(the monk of Todai-ji). Temporinsho is one the works known as the books of the Agui-ryu安居院流(the school of preaching established by Choken澄憲,the monk of Enryaku-ji). Through cultural exchanges with the secular society, Choken created the new expression of hyohaku表白(the text that stated the purpose of a Buddhist assembly). Bengyo told about the retired Emperor Goshirakawa from his own perspective.The heritage of Choken and Bengyo still lives in The Tale of the Heike.

研究分野：日本中世文学

キーワード：平家物語　唱導　安居院　転法輪鈔　弁暁　寺院資料　法会

## １．研究開始当初の背景

『平家物語』が唱導（仏の教えを広く説くこと）と深く関わりながら誕生したことは、早くから指摘されている。たとえば、安居院流（平安時代末の天台僧である澄憲が創始した唱導の流派）の資料である『澄憲作文集』など、唱導資料が『平家物語』の本文作成に用いられたことが明らかにされている。あるいは、先例を列記したり、和漢の「因縁」を語り出したりする方法も、『平家物語』が唱導から学んだものである。したがって『平家物語』と唱導との関係という研究テーマは新しいものではない。

しかし、近年、唱導研究は新しい段階に入りつつある。つまり、唱導を単なる布教行為とするのではなく、唱導に付随したさまざまな芸能や音楽、あるいは絵画や造形物によって飾られた儀礼の空間など、唱導をめぐる諸文化が研究対象になってきている。中世寺院における知や技術を総動員して展開したものとして、唱導をとらえることで、唱導研究はこれまで以上に豊かな成果を出すようになってきている。

このような研究が可能になった理由として、一番に挙げるべきは寺院経蔵調査の進展である。唱導資料を多数含む神奈川県立金沢文庫保管の称名寺聖教は、平成 18 年に一括して重要文化財指定を受けた（平成 28 年に国宝）。平成 25 年には醍醐寺聖教類が醍醐寺文書とあわせて、国宝「醍醐寺文書聖教」に指定された。これらは、長年にわたる調査・研究の結果であるが、その成果は目録や研究書などを通して次々と公開されている。これら寺院資料研究の進展によって唱導研究も深化しつつあると言える。

このような動向を受けて、中世寺院の知や文化は国際的にも関心を集めるようになっている。ルチア・ドルチェ、松本郁代編『儀礼の力　中世宗教の実践世界』（法蔵館、平成 22 年）や、林雅彦・小池淳一編『唱導文化の比較研究』（岩田書院、平成 23 年）など、仏教儀礼や唱導の比較文化史的研究が出現している。

以上のように、唱導研究が新たな地平を切り拓く中で、『平家物語』と唱導との関係性も、新たな視点を導入して考察していくことが必要だと考えるようになった。唱導とそれに伴う諸文化の豊かな側面を綜合的に明らかにしつつ、『平家物語』がそれとどのように関係しているのかを考えていくことができると考えるに至った。

## ２．研究の目的

『平家物語』とそれを取り巻く唱導文化との関係性について、綜合的な研究を行う。

平安時代末に、澄憲とその子聖覚によって開始された安居院流は、膨大な数の唱導資料を作成して後代に遺した。そして、それらは鎌倉から室町期にかけて盛んに書写され、地域・宗派を越えて流通した。その結果、現在も各地寺院や文庫に、各種の唱導資料が伝存することになった。長い時代を経たため、澄憲・聖覚が作成した書物の一部でしかないが、それでも数多くの資料が遺されており、それらにより、われわれは、中世に展開した唱導文化の豊かさを知ることができる。本研究の目的の一つは、唱導資料から、唱導とその営みが持っていたさまざまな文化的側面を明らかにすることである。

その上で、唱導と『平家物語』との関係性について、追究する。『平家物語』は、唱導が持っていた豊かな文化を吸収しながら成立してきたと考えられる。唱導資料を手掛かりにして『平家物語』を取り巻く中世の唱導文化の特質を解明し、物語が唱導文化との交渉から生み出されてくる様相をとらえることが本研究の最終的な目的である。

## ３．研究の方法

『平家物語』とそれを取り巻く唱導文化との関係性を明らかにするために、以下の二つの側面から研究を行う。

（１）唱導資料の調査と読解を行う。各地寺院・文庫に所蔵される唱導資料について調査を行う。これにより唱導資料の全体的特質を把握していくようにする。また、すでに紹介・公刊されている唱導資料の読解を深める。関連諸領域（日本史学・仏教史学など）の成果に学びつつ唱導資料から読み取ることができることを探究する。これらにより、唱導とそれを取り巻く諸文化の文学史的・文化史的意義を追究する。

（２）唱導を取り巻く諸文化と『平家物語』との関係性について、考察を行う。『平家物語』が、唱導とそれに伴うもろもろの文化をいかに吸収しているか、（１）で行う唱導資料研究の成果を踏まえながら、いくつかの観点から考察することを試みる。

（１）は唱導文化の特色と意義を発信していくための基礎作業である。未紹介の唱導資料を調査・紹介しつつ、その意義を積極的に評価していくことで、唱導文化の豊かさを示す。（２）は物語と唱導との関係性に関する研究であり、『平家物語』と唱導文化との関係性について、多様な視点から解明していくことを試みる。

## ４．研究成果

唱導を取り巻く諸文化と『平家物語』との関係性について、以下のような研究成果を得た。

（１）安居院流唱導資料の一つ国立歴史民俗博物館蔵『転法輪鈔』「堂供養帖」を手掛かりとして、澄憲と世俗社会との交流様相を追究した。澄憲に法会での導師を依頼した人物の中には、歌人としての活動が確認できる者

がいる。それらの人物と澄憲との関係を見ていくと、澄憲との和歌の贈答も確認できる。澄憲と関係を持った歌人たちの和歌を見た上で、澄憲の表白（法会の趣旨を読み上げた文章）を見直してみると、和歌表現との関係性を指摘できる箇所があることが分かった。澄憲は単に法会での導師を勤めるだけでなく、和歌活動を通しても公家の文化圏に参入していた。一方、和歌表現の側にも、澄憲（とその表白）との接触により、新しい側面が発生したことが確認できる。つまり、表白と和歌とが接触することで、相方に新しい表現が生み出されることになった。このように、唱導の領域と和歌世界とが重なり合うことで、平安時代末に、新しい文化圏が作り出された。それは唱導により生まれた文化圏の一つと言える。そして、それが、『平家物語』の表現・文体を生み出す土壌となっていると予想されることを明らかにした。

（２）中世にさかんに行われた行為に「宗論」（宗の教義をめぐる対立論争）がある。これは唱導と関係する側面を持つ。すなわち、公の場で宗論を行い、それに基づく書物を作成し流通させることは、論争を通して、仏の教えを人々に広めるという側面も持っていた。論争を演じることで教説を流布させることができるのである。そのように考えると、修論は唱導文化の一つと言える。本研究では、唱導としての宗論が生み出した価値観・秩序と『平家物語』との関係性について考察した。具体的には大須真福寺から発見された栄西の著作『改偏教主決』から、中世仏教界における論争のあり方を明らかにした上で、論争を通して生み出された「魔」をめぐる世界観が『平家物語』に深く投影されていることを示した。

（３）神奈川県立金沢文庫から公開された『弁暁草』の分析を通して、唱導と『平家物語』との関係性を考察した。弁暁が唱導を通して作り上げた後白河法皇像が、唱導というメディアを通して世間に流通し、やがてそれが『平家物語』に取り込まれていった様子を解明できた。『平家物語』が描く後白河法皇像は、唱導によって生み出された人物像を基礎としている。また、弁暁の唱導にとっては、後白河法皇という存在が圧倒的に重要であり、弁暁が唱導を通して後白河法皇をめぐる一種の歴史語りを生み出していることも明らかにした。さらにそれが、『平家物語』の歴史叙述の基本的枠組みの一つとなっていることを示した。

（４）本文が未紹介であった国立歴史民俗博物館蔵『転法輪鈔』について、本研究以前から翻刻・解題作成を進めてきたが、本研究の期間内に、校正作業と補足研究を行うことで、翻刻と解題を公刊することができた。

（５）研究代表者は、延慶本注釈の会に参加し、研究会のメンバーから『平家物語』研究について意見・情報を得つつ、本研究で得た唱導と『平家物語』との関係性について、研究会に知見を提供してきた。この間、『延慶本平家物語全注釈』が３冊（巻八・巻九・巻十）刊行されたが、本研究で得た知見をいくつかの箇所に盛り込むことができた。

（６）唱導が翻訳としての側面を持つことに注目し、法会で経典を説く行為（経釈）が翻訳行為としてどのような特質を持つか、また、どのような意義を持つかについて学会発表を行った。唱導に注目することで日本における翻訳研究の幅が広がる可能性があることを提言した。

（７）唱導を生み出した寺院文化のあり方を調査・探究する過程で見出した『雑要抄』について、翻刻・解題を発表した。『雑要抄』は唱導が盛んであった時代の寺院における学問のあり方を考えていく際に重要な手がかりとなる資料と言える。

（８）唱導について、芸能を伴った演技としての側面を重視することで、その文化的特質を『平家物語』や仏教説話との関わりから再評価できることを示した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

①牧野淳司・三好俊徳・筒井早苗・阿部美香・猪瀬千尋、国立歴史民俗博物館蔵『転法輪鈔』翻刻と解題、国立歴史民俗博物館研究報告、査読有、188 号、2017、147-341（全体解題と第一帖の翻刻・解題を分担執筆）

②牧野淳司、宗論・相論とその時代の物語、仏教文学（仏教文学会）、査読無、40 号、2015、127-134

③牧野淳司、春草と秋風、文芸研究（明治大学文学部）、査読有、126 号、2015、179-189

④牧野淳司、表白論の射程―寺院文化圏と世俗社会との交錯、アジア遊学（勉誠出版）、査読無、174 号、2014、128-139

〔学会発表〕（計１件）

①牧野淳司、唱導における翻訳の想像力、The 2nd East Asian Transation Studies Conference、2016 年 7 月 10 日（日本・明治大学）

〔図書〕（計７件）

①松尾葦江編、ともに読む古典　中世文学編、笠間書院、2017、334、論文「笑いと涙の中世寺院―仏教説話を生み出す場」を掲載（91-101）

②中世禅籍叢刊編集委員会編、中世禅籍叢刊第七巻　禅教交渉論、臨川書店、2016（『雑要鈔』の翻刻と解題を分担執筆、559-569 と

665-686）

③延慶本注釈の会編、延慶本平家物語全注釈第五末（巻十）、汲古書院、2016、516（共同執筆のため、執筆分担箇所抽出不能）

④福田晃・中前正志編、唱導文学研究第十集、三弥井書店、2015、313、論文「院政期仏教界における論争と秩序」を掲載（37-54）

⑤日下力監修、いくさと物語の中世、汲古書院、2015、602、論文「天下乱逆をめぐる唱導」を掲載（91-108）

⑥延慶本注釈の会編、延慶本平家物語全注釈第五本（巻九）、汲古書院、2015、694（共同執筆のため、執筆分担箇所抽出不能）

⑦延慶本注釈の会編、延慶本平家物語全注釈第四（巻八）、汲古書院、2014、518（共同執筆のため、執筆分担箇所抽出不能）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
牧野淳司（MAKINO Atsushi）
明治大学・文学部・教授
　研究者番号：１０４５３９６１

(2)研究分担者
　なし

(3)連携研究者
　なし

(4)研究協力者
　なし